



NPO法人ジャパンデンタルミッション

海外活動報告書

場所 バヌアツ共和国・ペンテコスト島

期間 2019年7月11日～7月19日（前乗り組10日～19日）

参加メンバー

（左から）Lillirose Dan, (H : Vila Central Hospital member of Vanuatu G.), 鳴田さつ紀 (H) ,
Luke Lachlan Michael (V), 大沼華子 (TS) , 宮内知彦 (D) , 伊藤玲 (D) , 沢田宗久 (D) ,
Russell Olul, (Dental therapist : Vila Central Hospital member of Vanuatu G.), 関根 淳(D),
小西あゆみ (H)

※ (D) 歯科医師, (H) 歯科衛生士, (TS) 歯科技工士専門学生, (V) ボランティア



前乗り組活動内容

2019.7.11. 小雨(バヌアツ首都ポートビラ)



10日前乗り組メンバー(沢田代表、関根、伊藤、宮内、Michel、大沼、鳴田)の7名が羽田空港で合流後、JDM本部からの活動物資、医療器具など9点の荷物を受け取り、無事にチェックイン。

ニューカレドニア1泊で経由し、約24時間かかりポートビラに到着。現地保健省のJenny氏、Russell氏、Lillirose氏が空港で出迎えて頂き、ホテルまで心良く送迎して頂いた。

PM16時にメラネシアンホテルに到着。街中を散策して食事後、長時間のフライトで皆疲れていたため明日に備え即就寝。

現地保健省との会議参加組(沢田代表、関根)

夕食までの間、JDMで購入した発電機の使用法のレクチャーを受けに、ホームセンターへ。延長コード、ブルーシートなどを購入。



12日 曇のち晴れ



午前中は、日本の支援で設立された首都ポートビラの総合病院VCH(Villa Central Hospital)の見学。初参加のメンバーも初めて首都ポートビラの歯科の現状を目にして、日本の歯科医療とバヌアツの歯科医療事情の違いや問題を感じることができた。診療ユニット3台、Dr3-4名で約30人前後/日を診療しているとのこと。主な診療内容は、抜歯、充填処置、義歯製作などである。診療機材に限界があり他の治療メニューを増やすことは困難である様子。遠方から来られる患者も多く抜歯によって痛みだけでも改善してあげることができるとても大きな意味があると現地Drは言う。



午後には、Dh小西が合流し、活動メンバー全員が

揃い、夕食時にそれぞれの活動にかける思いや参加の動機などを語り合い、合わせて沢田代表の活動にかける熱き思いを聞き、チームの団結力を増すことができた。また、バヌアツのJICA所



長からも海外ボランティア活動やJICAの活動に関するお話や貴重なご意見を頂くことができた。明日早朝からのペンテコスト島への出発準備、活動機材の荷物梱包の準備をして明日に備え就寝。

現地保健省との会議参加組（沢田代表、関根）

10時から保健省でミーティング。

保健省公衆衛生部長レン・タリボンダ氏、ヘルスプロモーション、WHOアドバイザー、ミリアム・エーベル氏、保健省パブリックヘルスヘルスプロモーション課、課長JJローリー氏、学校計画コーディネーター、歯科衛生士リリーローズ・ダン氏、事業コーディネーター、歯科セラピストラッセル・オルル氏、保健省歯科公衆衛生担当歯科医師ジェニー・スティーブン氏

※診療場所について

2017年の沢田代表視察では学校の1部屋を使用することになっていたが、2018年はコミュニティの教会での治療となりました。2018年に診療スペースをコミュニティが新築することになっていたが、その通り実現し、協会の裏に多目的施設が既に完成しているとの事。

※JDMの診療器具保管場所について

現在安全に器具を保管出来る場所が存在しない。パンギコミュニティの保健センターは既に助産施設として稼働しており保管倉庫はない。2018年はラッセル氏の姉の自宅を使用したが、今年は親戚が帰ってくるので使えないとのこと。パンギコミュニティで改めて相談することとなりました。

※学校検診について

サウスペンテコストには対象学校が8校存在するとの事。今回は1校（パンギ小学校）検診、国際文化交流、歯科衛生教育、1校（ラングスクス小学校）衛生教育のみの予定だが、できれば2校とも検診してほしいとのリクエストを受けました。将来的には8校検診したいとの事。

※政府の事業として

学校検診の結果

診療所での診療内容、（何人来たか、抜歯の数、義歯の数、スケーリングの数、充填の数など）を後で報告してほしい。

※MOU（メモランダムオブアンダスタンディング）各省庁共通の調印フォーマット

担当者がワードのフォーマットを編集できない、承認会議に持っていけない、日本語が混じってる、などと1年以上放置されてきました。しかし、中央病院には2年おきに中国人の歯科医師を常駐させる、というMOUを中国政府と既に調印しています。なぜJDMとの調印は1年以上かかるのか？公衆衛生部長レン・タリボンダ氏と直談判し、我々がペンテコストでの活動中にMOUの調印の準備を済ませ、帰ってきたらその日に調印できる様にする、という約束をしました。

12時30分から保健省にて会議のメンバーと昼食。

MOU以外は和やかな会議だったため和気あいあいとしたランチとなりました。

13時30分から中央病院歯科視察

中央病院では資材不足により、次回の入札までにグラスアイオノマーセメント、フジナイン、人工歯が不足しています。またPCV（Presbyterian Church of Vanuatu）で行なっている学校検診プログラムでピンセット20個、ミラー20個プローブ20個、乳歯抜歯鉗子2セットが不足しているとの事で寄付の要請を受けました。

※小断 14時から

10年以上前、まだJDMがメリディアンホテルに宿泊していた頃、ホテルの一角でバヌアツの名もなきアーティストが自分で彫刻小物を販売していました。感動した沢田先生が、どの様に作っているのか道具を見せてもらおうと、古びた小さなボロボロの彫刻刀を見せてくれました。あまりに壊れそうだったので、来年日本から彫刻刀を持って来る事を約束し、翌年ホテルに持っていくと、もうそのアーティストの姿はありませんでした。ホテルに尋ねると、居場所を教えてくれ、彫刻刀を渡すことができました。日本人の約束を守る心を証明することができました。それから約10年経った今年、ふとメラネシアンホテル、サウスパシフィックツアーズのお土産コーナーを見ると見覚えのある彫刻作品が。そう、日本製の彫刻刀で腕を上げ、バヌアツを代表するアーティストに成長したトニー・ブルース氏のナタンゴラカービング作品だった。メラネシアンホテル



ルマネージャーの土山さんに聞くと、有名なアーティストで、結婚指輪も彫ってくれたそう。沢田先生の話をする、すぐ本人を呼び、10年ぶりの再会となりました。10年前の10本セットの彫刻刀は最後の1本となって、折れても溶接して使われていました。しかし他の国の彫刻刀ではダメだ、ということで、頑に買い替えなかったそう。今回また彫刻刀を日本から持って来る約束をして、別れたのでした。

15時

JICA事務所表敬訪問。以前からJICAとJDMの直接契約の事業はないものの、学校検診等で青年協力隊と協力関係になり、バヌアツ保健省がJDMの活動に協力隊のメンバーを派遣するなど、毎年の様に関わっています。今回の所長は公衆衛生に理解があり、現在ペンテコストには協力隊の派遣は無いが、また何かあればお互い協力することとなりました。

夕食はJICA所長を招き、メンバー全員での食事会となりました。

本隊活動内容

13日 晴れ



我々の活動のサポートもして頂き、寝食も共にして食事のサポートや現地の方々との交流のサポートをして頂き我々JDMのメンバーとして活躍されました。



早朝よりペンテコスト島に向けて出発。荷物の超過が150kgあり減らすことができないと飛行中止となることを伝えられ、やむなく追加チャーター便を利用し全ての荷物を運び1時間程でペンテコスト島に到着。

今回の活動には、バヌアツ保健省より昨年も共に活動して頂いた歯科衛生士 Lillirose Dan, Dental セラピスト Russell Olul,が活動のサポートに同行頂き、共に活動することで日本人メンバーのこの活動にかける思いや情熱を肌で感じて頂いて、共に協力し合い感動的な活動を行うことができました。TV ディレクターの石原智香さんが我々JDMの活動について取材をして頂きました。(BTV ケーブルテレビで放送予定) 石原さんは取材の合間には、率先して

昨年建設中であった、宿舎が完成していて、シャワー・トイレ・キッチン完備、13名前後宿泊可能な施設であり、快適に過ごすことができました。また、昨年の診療所スペースは、教会のスペースをお借りして診療していましたが、今回は、教会に隣接したところに診療所として利用できる建物を建築して頂いておりました。水やトイレ、施錠できるドアなど安全に使用できる環境で、我々の持参したジェネレーターもスムーズに起動させることができ診療には十分な広さと快適な環境でありました。

当日は、各自宿泊施設で荷を下ろし、教会で村人からの歓迎セレモニーを受け交流を深めた後に、診療所へ向かい翌日からの診療に向けて準備を開始。

今回も義歯作成などの技工作業もあることから、歯科技工のスペースや診療スペースなどを設置し、機械・器具の動作確認を行いました。バ

キューム3台機能する予定でしたが、1台のみしか動かず、バキュームを必要な場合には、それぞれシェアしながら使うことにしました。

現地事務局との会議参加組（沢田代表、関根）

JDMの荷物は誰も触れていない、との事だったが、既に診療室に移動してありました。

歓迎セレモニー後のミーティング、学校改善事務局ルル氏とパンギー小学校校長と JDM の医療器具保管場所の相談。学校に JDM の医療器具全てを保管するスペースはないので、今建設中の図書館を延長し、スペースを確保してはどうかと提案あり。しかし予算は止まっており、去年から図書館の建設はストップしている。JDM に延長スペースの分予算を寄付できないか相談ありました。学校としては鉛筆、ノート、タオル、石鹸などが足りていないとの相談がありました。

14日 晴れ 診療1日目



8:30より全員手分けして、診療準備にとりかかる、早朝より、沢山の島民が教会に集まっていました。受付・抜歯・充填・技工のスペースはそれぞれ十分なスペースをとることができ、新しい診療所として広いスペースと風通しが良いのであまり暑さは感じることなく、それぞれの役割でチームワーク良く、円滑に診療ができました。今回は、チームで自炊することが主になっていたため、日本から調味料を持参し、首都ポートビラから野菜などの食材を用意しました。午前中の調理メンバーが1時間程度前から昼食の準備をして、現地の鶏を捌いて頂いたものを調理して炊き込みご飯にしたり、パスタを作ったりと現地食材をアレンジして日本食をメインに美味しく頂くことができました。



昼食後、診療再開。義歯の作成希望者も多く来院され、技工作業も製作作業にとりかかり、診療環境にも慣れ、スムーズな診療ができました。初日の活動で、緊張はあったものの、それぞれの役割で、みんな充実した活動ができた実感することができました。



15日 晴れ 診療2日目



午前中はパンギー小学校での歯科検診組と診療組に分かれての活動。数年前から活動での課題となっていた「検診用紙の改善」が今回の活動から検診用紙を新規に作成し、バヌアツ保健省と共有できるものとなり、検診を受けた子供達の保護者へより解りやすく検診結果を伝えられるようなものとなりました。

その結果、午後の診療には、多くの治療の必要な子供達が来院してくれました。

現地事務局との会議参加組（沢田代表、関根）

パンギー小学校、学校検診。

口腔衛生教育は今回JDMでは行わず、JDMで配った歯ブラシを利用し、ラッセル氏がペンテコストラングージ（英語や共通語のビシュラマ語ではなく、村の言葉）にて歯磨き方法を説明しました。

たこち西山本小学校の学生たちが描いた日本の絵をプレゼント、翌日までにペンテコスト島やバヌアツの絵を子供たちが描いて提出する事となりました。

16日 晴れ 診療3日目



午前中はラングスク小学校での歯科検診組と診療組で分かれて活動。午後からは、全員で診療再開。最終診療日であり、村人たちにも十分に周知され、義歯作成希望の方も多く、可能な限り対応し、その他の診療部門でも昨年以上の村人からのニーズと期待がメンバーにも伝わり、みんな最後まで懸命に取り組むことができました。

現地事務局との会議参加組（沢田代表、関根）



ラングスクス小学校検診。パンギーからは車で約40分の距離があり、診療所が混んでいたため、Dr.沢田、Dr.関根、DHリリー、セラピストラッセルの4人での訪問となりました。

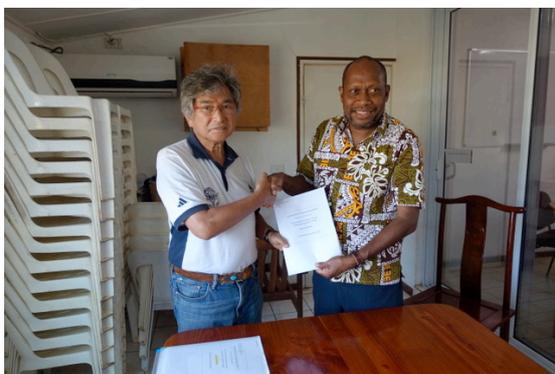
歯ブラシ、タオル、クレヨン、画用紙などのドネーションセレモニーの後、フランス語コミュニティのためラッセル氏のパンギランゲージによる口腔衛生教育となりました。検診班は少人数であ

ったが、政府からスクリーニングの要請はプライオリティーが高いため生徒全員の検診を行うことができました。また、ラングスクス小学校でもバヌアツの絵を描いてもらうことになりました。午後診療後、再度JDM診療器具保管場所の相談。パンギー保健センターより、現在施設内ではスペース無いが、施設を延長する形で倉庫を制作できるとの事。しかし予算がないので、この場合もJDMに寄付の要請がありました。見積もりをメールしてくる予定。

17日 晴れ ペンテコスト島 パンギー村出発

早朝に持ち帰る機材や各自荷物をまとめて、ほぼ定刻に首都ポートビラに戻り、15時頃に無事にホテルへ到着。メンバーみんなで食事会をして無事に活動終了できたことを喜び、久しぶりの湯船に浸かり安堵しました。翌早朝には、ニューカレドニア経由で日本へむけて出発のため就寝。

現地保健省との会議参加組（沢田代表、関根）



15時、ポートビラに戻りすぐに保健省へ。MOUの調印準備が整ったとの事。レン・タリボンダ氏のオフィスにて調印。永きに渡る交渉未調印に至り皆感動。今後3年間今回のMOUを基にJDMの活動が行われる。36年に渡るJDMの活動への感謝の言葉が述べられ、ペンテコスト島でまた新しい歴史が始まる・・・との事で集合写真撮影。長年JDMの担当をしていたJJローリー氏は年末に引退となり、今後はジェニー氏が窓口となる。



総括・活動リーダー報告

雨にうたれることなく天候に恵まれ、最終日までスタッフ全員健康に、不調になる者も出ず元気に活動できました。今回は、ペンテコスト島のパンギー村を拠点に2回目の活動となりました。空港から40分ほどの場所で、300人ほどの集落。昨年の宿舎は、パンギー村唯一の民宿を利用し、徒歩5分ほどの場所にある教会のスペースをお借りして診療させて頂いておりましたが、今回は、私たちJDMの活動メンバーのために宿泊施設と診療所を新規に建設して頂き、快適に活動することができました。今年は、事前に村人に我々の活動を告知して頂いていたので、活動初日から治療希望の患者さんが多く来院されました。学校検診はパンギー小学校・ラングスク小学校で281人の子供たちの検診を行い、治療の必要な子供には親の承諾を得た上で、治療を行うことができました。パンギー村での歯科活動は2回目であるため、昨年の経験から多くの工夫をし、水の確保や電源供給、作業上の準備もスムーズで、村の人々のご協力もあり、円滑にミッションを実行することができました。

今回の活動から検診用紙を新規に作成し、バヌアツ保健省と共有できるものとなり、検診を受けた子供達の保護者へより解りやすく検診結果を伝えられるようなものとなりました。その結果、バヌアツ保健省と情報共有しやすく、治療の必要性の有無や保護者の同意を得やすい状況となりました。

また、歯科治療を希望する患者さんにおいても、写真撮影のご協力や歯科治療に対する同意を得られるようなカルテを新製し、実行できたことにより活動する歯科医療従事者にとって、安心して活動できる環境に一步前進しました。

そして、バヌアツ保健省とのやりとりで尽力を尽くして頂いた関根先生においては、永きに渡ってのJDM本会からの交渉を引き継ぎ、現地での会議交渉を続けたことによって調印に至り今後3年間今回のMOUを基にJDMの活動が行われることとなりました。バヌアツ保健省とJDM本会との協力体制の確立によって、我々活動者にとっても安心して活動できるものとなり嬉しく思う次第です。

より良い活動ができるように代表を含め、メンバー間で同じ釜の飯を食べながら、海外歯科医療ボランティア活動について熱く語り合いました。

今回は、昨年同様に活動メンバーの参加人数にも恵まれましたが、バヌアツ共和国という遠方の地での活動には、費用と長期の休暇が必要です。そえゆえ、医療従事者の方々にとっては、日頃の診療があり容易に参加できるものではないと思います。今後も我々JDMのバヌアツ共和国での活動を継続するためには、何よりも人財が大切であります。より多くの人々に私たちJDMの活動を知って頂き、共に活動してもらえ仲間が増えてくれることを願うばかりです。36年間バヌアツ共和国での歯科医療ボランティア活動を続けていられるのは、人々との繋がりがあってのものです。今後とも私たちJDMの活動に暖かいご支援のほど宜しくお願い致します。

今回のチームメンバーと共に、来年度の活動に向けてより充実した活動と村人の皆さんに喜ばれるように努めることを誓い、無事にメンバー全員が健康で安全に帰国の途に着きました。

JDM 伊藤 玲

2019.7. ペンテコスト島 治療・検診結果

	14日	15日	16日	合計
抜歯	36	41	22	99本
CR	8	6	15	29本
SC	13	17	5	35人
TBI	7	10	60	77人
クリーニング	0	3	62	65人
チェックアップ	4	3	23	69人
咬合調整	1	0	0	1人
義歯印象 上	5	1	2	8床
義歯印象 下	1	2	1	4床
義歯装着 上	1	4	4	9床
義歯装着 下	0	0	4	4床
義歯調整	0	0	1	1人
グセ充填	0	0	4	4本
患者数	55	42	87	184人

歯科検診		
7月15日	パンギースクール	153人
7月16日	ラングスクスクール	128人
合計		281人